

「ふね遺産」（推薦様式）：A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物：船舶航海性能試験水槽 所有者：東京大学	
2. 対象物の作成・存在時期	1970年3月竣工 2022年解体	
3. 現状（写真添付）	解体前の外観 	建設当時の水槽内部 
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	【認定対象】(2) 【認定基準】(1)	
5. 歴史的・工学技術的意義	コンピュータ制御による X-Y 曳引電車を装備した世界で初めての角水槽であり、今日の船舶海洋水槽（角水槽）の礎を築いた。この水槽は広い水面を必要とする船舶の航海性能の研究や各種海洋構造物の開発研究に貢献した。特に操縦性の分野では CMT と呼ばれる試験法が開発され、それまでの特殊な円形水槽に代わる画期的試験法が開発され、今日では標準的な試験法になっている。船舶工学における流体力学の確立・発展に加えて、船舶・海洋構造物の技術開発に多大な貢献をしてきた。	本施設を設計した小山健夫名誉教授は、本水槽による研究成果に対し1998年、公的活動や学術研究、技術開発などを通じて、わが国交通文化の向上に貢献してきた功労者に贈られる交通文化賞を受賞した。 1970年に本水槽建設後、以下の Seakeeping & Maneuvering 水槽が各国で建設された。 1972年 三菱重工長崎 S&M 水槽 1976年 HSVA S&M 水槽(改築) 1975年 IHI(現 JMU) S&M 水槽 1978年 住重平塚 S&M 水槽 1979年 SSPA S&M 水槽 2010年 NMRI 実海域再現水槽 等
6. 参考資料・文献（本表に収まらない場合は別途添付する）	1. 東京大学船舶海洋水槽について（第1報） 2. 東京大学船舶海洋水槽について（第2報） 3. Circular Motion Test (CMT)による操縦性試験法について 4. ITTC 14 th Maneuvering Committee Report 5. MMG 報告 IV 拘束操縦性試験の方法及び試験装置	

(*) No.は学会で記載します。

(**) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する最もふさわしい項目一つを、文頭の番号で記載して下さい。